

## 「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第10巻

清水, 周次  
九州大学病院

中島, 直樹  
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/1517924>

---

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 10, 2014-03. TEMDEC事務局  
バージョン：  
権利関係：

7. 全国国立大学病院国際化プロジェクト

# 国立大学附属病院長会議

National University Hospital Council of Japan

## Future Vision n



# Future Vision 国立大学

## ■常置委員長挨拶



国立大学附属病院長会議常置委員長  
千葉大学医学部附属病院院長  
宮崎 勝

国立大学病院は、地域を担う中核的医療機関として、数多くの重要課題に直面しております。

このような中、国立大学附属病院長会議は、大学病院の使命であります患者様中心の質の高い医療の提供とともに、先端医療の研究・開発や将来の医療を担う良き医療人の育成など、会員一丸となって最大限の努力を行っているところです。今後も、各種委員会で積極的な検討を行い、我が国の医学・医療の発展に貢献できるような提言や施策を大いにとりまとめるとともに、様々な課題に対してフレキシブルに対応してまいりたいと考えております。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

## ■国立大学附属病院長会議とは

国立大学の大学附属病院、医学部附属病院、歯学部附属病院及び附置研究所附属病院における診療・教育・研究に係る諸問題及びこれに関連する重要事項について協議し、相互の理解を深めるとともに、意見の統一を図り、我が国における医学・歯学・医療の進歩発展に寄与することを目的として、1950年(昭和25年)に発足しました。年1回の定例総会の他、医療情勢に応じ臨時総会を開催しています。



## ■常置委員会

本会議には、常設の機関として常置委員会が置かれております。総会への提案事項や総会運営の支援、総会からの付託事項、大学病院の管理運営上の諸問題等について、検討しています。

## ●国立大学附属病院の果たしてきた役割

### ●教育

- ▷多岐に渡る優れた医療人材の育成
- ▷研究マインドの養成

### ●診療

- ▷先進医療・高度医療の提供(国内5割以上の申請)
- ▷地域への医療人材供給・医療体制の強化

### ●研究

- ▷がん・難治性疾患に対する新規診断・治療法の開発

安心・安全な国民生活の実現

## ●国立大学附属病院が直面する課題

### ■超高齢化社会の到来

- ▷医療需要の変化

### ■若手医師の流動化

- ▷地域間偏在に伴う医師不足

### ■経営圧力の増加

- ▷医師過重労働、設備の老朽化

### ■研究マインドの低下

- ▷研究時間・論文数の減少

### ■国際競争力の停滞

- ▷教育・診療・研究体制が不十分

### ■災害の対応

- ▷医療支援活動を支え続けるための体制の構築

国民の期待に応える高度な機能の提供

実績

教育・診療・研究

現状と課題

世界をリードする国立大学附属病院を目指して

将来像

教育

診療

研究

地域貢献  
社会貢献

国際化

運営



# 附属病院の未来を描く

## ● 国立大学附属病院の将来像 ～全33の提言～



- 提言1 卒前教育・医師国家試験の改革
- 提言2 地域特性に根ざした医師臨床研修体制の構築
- 提言3 専門医の認定システムの改善
- 提言4 ネットワークを利用したキャリアコースの提示
- 提言5 キャリア形成支援センター(仮称)の設置
- 提言6 総合臨床教育センター(仮称)の設置
- 提言7 大学院教育との密接な連携
- 提言8 医師等の再就職・復帰支援システムの構築



- 提言1 医療の質(クオリティインディケータ)の明確化
- 提言2 基盤部門の整備
- 提言3 最先端医療に係る規制の緩和
- 提言4 安心・安全で質の高い医療の実現
- 提言5 医療情報の共有化



- 提言1 医師が研究・開発に従事できる環境の整備
- 提言2 研究マインド向上のためのインセンティブシステムの確立
- 提言3 病院間ネットワークの形成と役割分担の明確化
- 提言4 研究費の安定的な確保の実現
- 提言5 国や社会に対する情報発信機能の強化



- 提言1 長期的視野に立った新たな地域医療提供体制の構築
- 提言2 メディカルICTを活用した医療提供体制の整備
- 提言3 地域における医療課題への積極的な参画
- 提言4 地域の活性化につながる仕組みづくりへの貢献



- 提言1 世界をリードする医療の構築
- 提言2 国際的な人材の育成と国際人事交流の推進
- 提言3 国際医療情報発信センターの設置
- 提言4 高度で先進的な医療の国際競争力の強化



- 提言1 国立大学附属病院としてのガバナンスの確立
- 提言2 中長期的な財政計画の立案・実行を可能とする制度の確立
- 提言3 病院雇用職員の処遇改善と運用の統一化
- 提言4 医療にかかわる職員の新たな人事労務モデルの構築
- 提言5 国立大学附属病院のネットワーク化の推進
- 提言6 国立大学病院データベースセンターの充実・発展
- 提言7 国立大学附属病院長会議事務局の強化・拡充



教育
診療
研究
地域貢献  
社会貢献
国際化
運営

Future Vision 

# 附属病院の将来像を実現化

## ～ 33の提言をアクションに～

将来像実現化WG (Working Group) を設置 (平成24年6月)

6つのテーマに応じてPT (Project Team) を設置し、より具体的・専門的に検討を進める

### ● 教育PT

人材育成システムの中心的役割を果たすために、①臨床現場重視した教育の実施②地域等と連携したキャリア形成支援と総合的臨床教育の実施③医師需要を反映させた専門医認定システムの確立④再就職・復帰支援体制の構築などの実現化シナリオを策定する。



### ● 運営PT

社会に対して果たすべき使命を達成するために、①統治力の確立②中長期的な財政計画の立案・実行③独自財源による雇用の充実④国立大学病院データベースセンターの発展⑤事務局機能の強化などの実現化シナリオを策定する。

### ● 診療PT

最先端医療の提供を安心・安全に行うために、①「医療の質の指標(クオリティインディケータ)」の設定と開示②診療基盤の整備③規制緩和④診療部門の再編・創設⑤病院間における情報共有の推進などの実現化シナリオを策定する。

## 国立大学附属 病院長会議

### ● 国際化PT

国際的医療ネットワークの整備、国際的な人材育成・人事交流推進のために、①国際医療情報発信センターの設置②新薬・新医療機器の承認に係る制度の改革③日本発の高度先進医療開発に向けた国際競争力の向上などの実現化シナリオを策定する。

### ● 研究PT

臨床研究の質・量を向上させるために、①研究・開発環境の整備②研究費の安定的確保③研究マインド向上を図るシステムの確立④病院間ネットワークの形成と役割分担の明確化⑤情報発信機能の強化などの実現化シナリオを策定する。

### ● 地域貢献・社会貢献PT

地域医療のハブ機関としての役割を果たすために、①疾病構造の変化や少子高齢社会に対応した医師の育成・派遣②医療情報の標準化と共有③圏内企業とイノベーション事業の創出④災害等の危機管理への積極的な参画などの実現化シナリオを策定する。



教育

診療

研究

地域貢献  
社会貢献

国際化

運営

Future Vision



# Activity Report 活動報告

## Report 1 東日本大震災への継続した医療支援活動

東日本大震災発生以降、国立大学附属病院はその社会的使命を果たすべく、献身的に医療支援を展開してきました。これまで、計1,429チーム 延べ3,780名（医師1,898名、看護師等1,882名）が被災地における医療支援活動に従事してきており、これらの支援活動の一部は、現在も継続して行われています。



(平成24年9月30日現在)

期間	大学数 (大学)	チーム数 (チーム)	延べ人数 (名)	医師	看護師等
DMAT出動 平成23年3月11日～12日	31	52	257	105	152
各国立大学独自医療支援チームの派遣 平成23年3月～(一部継続中、被ばく医療含む)	41	868	2,453	1,154	1,299
国立大学附属病院リレー方式による医療支援 平成23年4月～7月	13	64	320	108	212
こころのケアチームの派遣 平成23年4月～(継続中)	32	283	574	355	219
国公私立大学病院共同医療支援 (国立大学病院の実績のみを記載) 平成23年9月～(継続中)	41	162	176	176	0

### 1 支援物資の供給機能

大学病院を拠点に不足物資を的確に配達

### 2 情報共有・体制構築機能

大学病院の重層的ネットワークを活用

### 3 人材派遣機能

共有された情報で医療人材群を派遣

国立大学附属病院が持つ  
7つの機能

### 4 ニーズ即応機能

多様な医療ニーズに応え多彩な人材を派遣

### 7 支援継続機能

長引く医療支援活動を大学病院間のリレーで継続

### 6 政策実現機能

国立大学法人として国の政策を実現

### 5 高度医療提供機能

高度な医療技術で感染拡大防止・被ばく対応

## Report 2 国立大学附属病院長会議メディアセミナー開催



平成24年3月、国立大学附属病院長会議常置委員会は、報道各社を対象にメディアセミナーを開催しました。このセミナーでは、我が国における医療の発展向上のために、さらには、国民の理解と信頼を得ることを目指して、10年から20年先の新しい国立大学附属病院の将来像を取りまとめた『国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めて～その課題と展望～』を公表しました。この他、現在も継続して行っている被災地への医療支援活動の状況についても報告を行いました。

## Report 3 第66回国立大学附属病院長会議総会及び各種協議会開催

平成24年6月、第66回国立大学附属病院長会議総会が開催され、『国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めて～その課題と展望～(平成24年3月)』において提言した将来像の実現に向けて、新たなWG等の設置、各大学病院の特性を活かしたネットワークの構築等について検討を行ったほか、大震災を教訓とした新しい病院情報システムのあり方についても議論されました。また、国立大学附属病院長会議では、大学病院に共通する専門的事項を調査・研究するために4つの協議会を設置し、安心・安全な医療の提供に向けて、様々な課題に取り組んでいます。

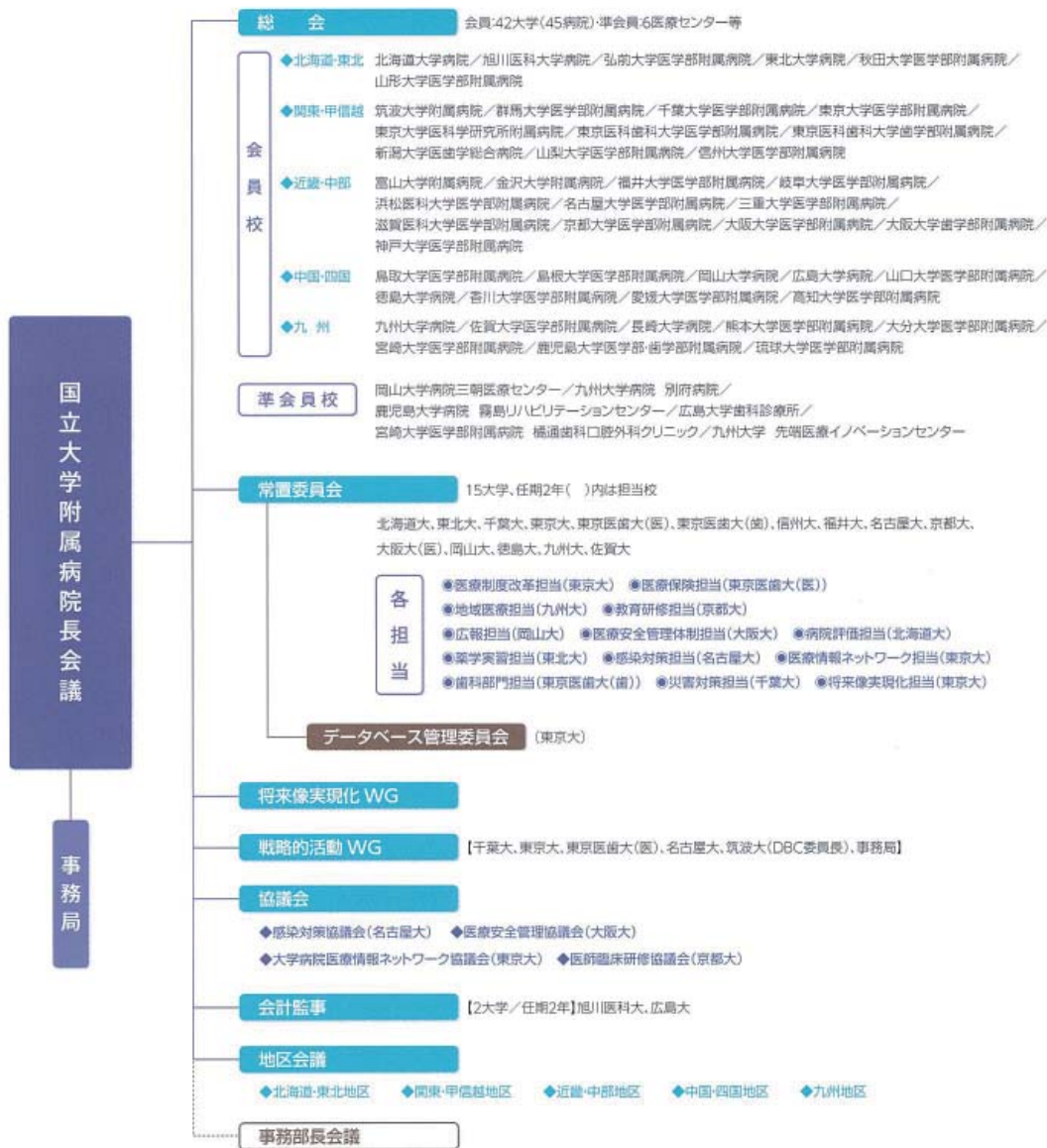


## Report 4 大学病院間における相互チェックの実施



国立大学附属病院長会議では、「感染対策」「医療安全と質向上」「歯科医師臨床研修」の各分野において、毎年、管理体制の強化を目的とした、大学病院間での相互チェックを実施しています。平成23年度、「感染対策」分野では院内感染の予防、「医療安全と質向上」分野では医療事故発生時の体制整備、「歯科医師臨床研修」分野では研修プログラムの内容を中心に相互チェックを行い、院内における管理体制強化に努めました。

## ○国立大学附属病院長会議 組織図



## 国立大学附属病院長会議

一般社団法人 国立大学附属病院長会議事務局  
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-25-13 グラン、フォークスV本郷ビル7F  
 tel.03-5684-1601 fax.03-5684-1602  
 mail inchokaigi-office@umin.ac.jp



## 国際化:遠隔医療教育ネットワークの全国的拡大

九州大学病院

### 高品質動画を利用した遠隔医療教育の全国的拡大

平成25年度の活動実績①: 国際化プロジェクトチームによる技術者合同会議とシステムの構築(平成25年4月～9月)

「遠隔医療教育ネットワークの全国的拡大」の実現に向けた体制整備の第一段階として、平成25年4月に国際化プロジェクトチーム(PT)・技術担当者合同会議を開催した。ここでは各大学の委員とともに、技術担当者が一堂に会し、各大学における遠隔テレビ会議システムの設置へ向けた討議を行った。その後、9月に開催された第4回国際化PT会議では、実際にPT校である全9大学の接続に成功した。各大学からは、当該システムの構築について、現状の問題点及び今後の計画等の発表が行われた。

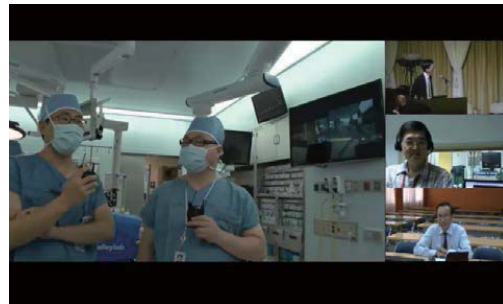


国際化PT 9国立大学病院への接続が完成(平成25年9月)

平成25年度の活動実績②: 国際遠隔医療教育ネットワークに関する担当医師及び技術担当者全国合同会議(平成25年10月)



一堂に会した国立大学病院の医師および技術担当者



海外接続のデモンストレーション(韓国・台湾・ベトナム)

体制整備の第2段階として、遠隔医療教育プログラムの作成に関して主担当となる医師及び当該ネットワークの構築を行う技術担当者を全国国立大学病院より選出し、その合同会議を福岡で開催した。41大学より医師38名、技術担当者61名が参加し、プロジェクトの概要や今後の進め方などについて討議した。参加者の理解を深める目的で、台湾やベトナムを接続してスライドや動画を使ったプレゼンテーションが行われた他、韓国からは手術現場から現地の医師と出席者との間で意見交換を行った。

平成25年度の活動実績③: 新しく参加した国立大学病院の活動例(平成25年8月、9月)

平成25年8月に開催された『ジャパン・ラボ』は、耳鼻科を対象にした初めての活動であった。初接続の宮崎大学をはじめ、京都大学、九州大学、アメリカのシアトル科学財団を接続し、献体を用いた手術の様子をシアトルから日本へ中継しながら相互にディスカッションが行われた。

平成25年9月に東京一ツ橋会館で開催された胎児エコー研究会には、北海道大学、弘前大学、東北大学、金沢大学、名古屋大学、徳島大学、愛媛大学、広島大学、琉球大学の9つの国立大学病院が遠隔によりセミナーへ参加した。初参加の名古屋大学、琉球大学をはじめ、遠隔会場にも合計約200名の参加者があり、プログラム内容も満足 of theいくつかであった。



シアトルから手術の解説をする宮崎大学の東野教授(左)



## 国際化:国際相互訪問、領域横断的セミナーの開催等を通じた継続的人事交流

### 九州大学病院

### アジアを中心とした国際遠隔医療教育プログラムの実施へ向けた医工学の連携

平成25年度の活動実績①:アジア太平洋先端ネットワークAPAN会議(平成25年8月、平成26年1月)

韓国で平成25年8月に開催されたAPAN会議で、アジア太平洋を中心とした学術ネットワーク技術とその応用に関する医工連携による研究発表が行われ、九州大学が医療ワーキンググループの事務局として参加した。今回の医療セッションでは外科や内視鏡等10のプログラムが企画され、25か国の91施設と接続を行った。肝切除のセッションでは、アジア諸国から11の施設が参加し、日本からは千葉大学が初めて参加、中国、ベトナム、マレーシア、インドネシア、インド、韓国などの医療機関が加わった。また、胃切除のセッションでは、ソウル大学からライブデモンストレーションが行なわれ、国内からは東北大学が参加した。また平成26年1月開催予定の次回会議では、歯科のプログラムが初めて企画され、東京医科歯科大学が参加予定となっている。



アジア地域の11施設を接続して行われた肝切除カンファレンス

平成25年度の活動実績②:アジア遠隔医療シンポジウム(平成25年12月)



タイのバンコクで開催された第7回アジア遠隔医療シンポジウム:世界各国の医師と技術スタッフが情報を交換

平成25年12月にタイ(バンコク)で「アジア遠隔医療シンポジウム」が2日間に渡り開催され、25カ国から現地55名、遠隔20名、合計75名の参加者があった。さらに13か国24施設から約200名の遠隔配信への聴講があり、各国・各施設の現状や問題点を共有すると共に来年の計画を話し合った。日本からは、旭川医科大学、秋田大学、筑波大学、岐阜大学、愛媛大学などが参加した。当シンポジウムはこれまで日韓で開催されてきたが、今回は初めて会場を東南アジアに移し、タイ(バンコク)で開催するという記念すべき年であった。

当シンポジウムの目的は、遠隔医療教育プログラムに関する知識や最新技術に関するの情報共有はもちろんのこと、各国の医療スタッフ及びシステム等技術担当者の継続的相互交流を目的としている。遠隔による国際交流と併せて、お互いが顔を合わせて直接交流を行うことで、更なる国際化推進が期待できる。(平成26年12月は福岡で開催予定)

#### 【ネットワークの接続状況】

- ・医療機関・大学……35カ国・195施設(うち平成25年度新規16カ国、28施設)
- ・その他の施設……28カ国・77施設(うち平成25年度新規13カ国、16施設)

(もっと詳しく……九州大学病院アジア遠隔医療開発センター <http://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/> )